



# 並木中等進路だより

＜後期生版＞

NO.1  
2019.4  
並木中等教育学校  
学習進路部

新年度がスタートしました。始業式の「学習進路部長講話」でも申し上げましたが、**学習の基本は日々の授業を大切にすること**です。生徒の皆さんには、未来の自分のためにすべき準備を怠らずに生活することを、強く求めます。**並木中等の学びで大切にしている探究力や論理力は、これからの社会が求める力**であり、再来年から行われる共通テストで求められる力でもあります。

試行錯誤を大切にすると並木中等の理数探究での活動は、発想力や行動力に磨きをかけます。アクティブ・ラーニングやR80は皆さんの論理力を深め、答えを見つけるための深い学びである納得解の探究へと皆さんを導いてくれます。日々の授業を大切に、**「予習→授業→自学による復習」のサイクルを確立**することが、アクティブ・ラーニング授業のメリットを最大限に活かす最善の方法です。つまり、**並木中等の分かる授業・思考する授業と、知識・理解を定着させる自学こそが、学力向上の両輪**です。では、結果に結びつく努力のできた一年となることを願っています。

## 共通テストに向けた最新情報

今年度に受験する七回生が、現行の大学入試センター試験最終年となり、八回生から大学入学共通テスト(共通テスト)が実施されます。今回は、共通テストの基本情報、最新情報をまとめました。

日 程	2021年1月中旬2日間		
出題教科・科目	現行のセンター試験と同じ	過年度卒業者対応	移行措置はなし
出題内容	マーク式においても思考力・判断力・表現力を問う出題がなされる 数・国で記述式を導入		
国 語	記述量は20～30字程度、40～50字程度、80～120字程度を記述する問題が、それぞれ1問ずつ。記述式問題はマーク式問題とは別の大問となる。 試験時間は100分に延長される。		
数 学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」で出題。数Ⅰの範囲で3題程度。 記述式問題はマーク式問題と混在する形での出題。試験時間は70分に延長。		
外国語(英語)	「筆記(リーディング、マーク式)」と「リスニング(マーク式)」 いずれにおいてもCEFRを参考に、A1～B1までの問題を組み合わせて出題する。 筆記とリスニングとの配点は均等を予定している。 各大学によって、比重の変更は可能である。		
英語外部検定	英語外部検定試験の受検は高3の4～12月の2回まで。 2023年度までは、英語外部検定試験と共通テストの英語との併用		
成績結果 提供方法	素点及び国語の記述式問題の段階別評価のほか、各科目について9段階程度の段階別評価を参考情報として提供することを検討している。 国語はマーク式の点数に加え、記述式の段階別評価を提供する。 (小問は4段階評価、総合評価は5段階評価) 数学は段階別評価をせず、点数で提供。 英語外部検定試験は、スコアとCEFRの段階別表示で提供する。		
平均正答率	5割程度として実施予定。現行のセンター試験よりやや高めの難易度設定。		

### ◎国語の記述式問題の評価について

一番記述量の多い 80～120 字程度を記述する小問についてのみ 1.5 倍の重み付けを行った上で、5 段階表示とすることが検討されている。

具体的な評価方法のイメージとして、右記の「総合評価 のイメージ」を用いると、まず、小問の間 1・2 (20 字～30 字程度、40 字～50 字程度)、問 3 (80～120 字程度) は a～d の 4 段階表示となる。

問 1、 問 2	a, a	C	B	A	
	a, b				
	a, c	D	C	B	
	b, b				
	a, d				
	b, c				
	b, d	E	D	C	B
	c, c				
	c, d				
	d, d	D	C		
	d	c	b	a	
	問 3				

その成績をクロスさせたところが総合評価となる。総合評価は A～E の 5 段階表示となり、記述量が多く、1.5 倍の重み付けをしている問 3 をしっかりと解答できた生徒が、高得点となる。

### ◎英語 4 技能検定試験について

- 2023 年度までは共通テストと英語外部検定試験の両方の結果を入学者選抜に用いる。
- 公平性保証の観点から、大学入試センターが認めた全ての英語外部検定試験を対象とする。
- 活用法は次の 3 パターンが案として提示されている

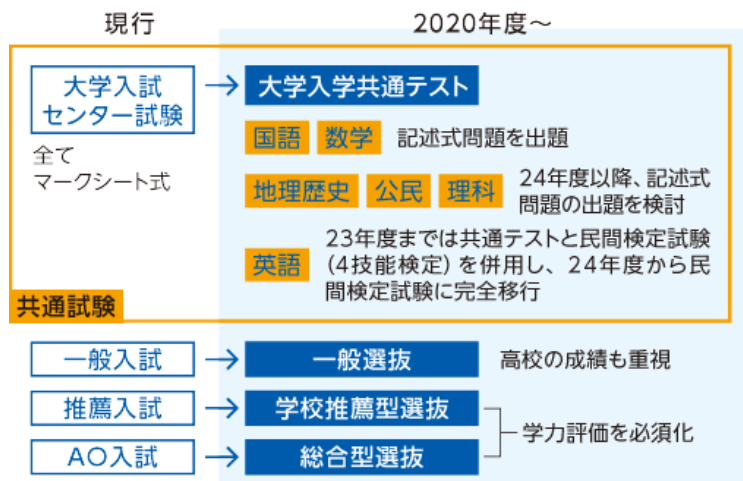
- ①出願資格      ②加点方式      ③出願資格+加点方式

現状では、活用法の最終的な判断は各大学・学部等にゆだねられている。

### ◎個別入試の変更点について

- 一般入試 → 一般選抜  
 推薦入試 → 学校推薦型選抜  
 AO入試 → 総合型選抜

名称の変更とともに、一般入試でも調査書等の活用が、AO入試、推薦入試でも、学力評価が必須化され、学力試験が課されるようになります。



### ◎具体的にどうなるの？

⇒筑波大学を例にとると…。

- 一般選抜においても「主体性等」の評価を導入して、調査書を点数化して利用。
- 一般選抜前期日程に「総合選抜」を導入。全体の約 25%を募集人員として、学類・専門学群の枠を越えて選抜する「総合選抜」と、「学類・専門学群選抜」の 2 つの方式で、前期日程を実施する。総合選抜は文系・理系 I・理系 II・理系 III とする。
- 一般選抜(前期日程・後期日程)では、共通テストの英語認定試験、記述式問題を点数化し、合否判定に利用する。具体的には 200 点満点に換算した英語の成績に、

英語認定試験の結果を C E F R 対照表に基づくレベルごとに最大 20 点を加点する。ただし、英語認定試験を受検していなくても、満点の 200 点を取ることは可能。



2021年度 募集人数における割合

